

contents

| | |
|---|-----------|
| 巻頭言・目次 | 1 |
| 群馬テレビアナウンサー 根岸麻衣子 | 2 |
| 1 君も夢を実現しよう | 3 |
| 野村文雄 金井博基 鈴木佳紀 吉門慶良 石田 寛 門 立升 | |
| 2 「キャリア・デザイン」へ 向けての履修戦略 | 15 |
| 矢野修一 石川弘道 | |
| 3 スタートダッシュ・ オン・キャンパス | 19 |
| 阿部真里子 藤原 愛 福井千鶴／ファン・カルロス安達 山崎薫里 名和賢美 久宗周二 | |
| 4 経済学の入門テキストはコレだ! | 29 |
| 中野正裕／柳瀬明彦／林 宰司 | |
| 5 経営学の基本テキストはコレだ! | 32 |
| 今井雅和／藤本 哲／関根雅則 | |
| 学生へのメッセージ | 35 |
| 白 春騷 | |
| 6 学びのアイディア | 37 |
| 加藤健太 大石 恵 潜道文子 岡田知之 池田幸典 | |
| 7 学びのスタンス | 43 |
| 田中久夫 木下 崇 高松正毅 内藤まゆみ | |
| 学内案内 | 51 |

明確な サクセス・ロード設計を

巻頭言



学会長

茂木一之

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。多くの方々にとって、長かった学校教育課程もいよいよ最終段階となります。これまでとは異なり、大学においては「自ら選択し、自ら学ぶ」ことが求められます。大学教育は、ひとつの器にしか過ぎません。その中から何を汲み取り、何を糧にするのかは、あなた次第です。

多様化し、流動化し、ますます混沌度（エントロピー度）を高めている現代社会にあって、思考の軸を定め、自分らしいサクセス・ロードを設計するのは、これから始まる大学時代なのではないでしょうか。そこで求められることは、なし崩しに進む時代の変化を読み取り、本物と形骸とを峻別する「感性」と、その「感性」を研ぎ澄ます認識基盤としての「問題意識」なのではないでしょうか。問題に直面し、問題と格闘することなしには、それを解決し、固有（ユニーク）で耐震性の高い方策を探求することはできないと思われれます。

まずは、あなたも持っている一粒の種子を大切にしてください。そして、それを「学び」の起点としてみてください。ひとつの事象がもつ多面的な関係性の総体を、群れとしての「知恵」である科学（法則の発見にかかわる知識体系）を使って学び、一粒の種子がもつ価値とか意味とかを検証してみます。そこにサクセス・ロードの扉が開かれます。これから皆さんが学ぶ経済学ないし経営学が、微かではあるが確実に輝いている一粒の種子の成長にとって、どれだけ有効で貢献できるのかを検証してみるのです。たとえそれが科学とか「学問」などという煌びやかな衣裝を纏っていたとしても、あなたももつ「問題意識」に対して有効な解決策を提示できなければ、所詮は観念的な思考の遊びでしかないのです。

諸企業の経営者があげる「期待される人材像」の第一位は、「問題解決能力」です。それは、「問題」を意識する感性に始まり、学ぶことによって検証し、そして独創的で時代の変化に適合的な方策（ツール）を考え出すチカラではないでしょうか。可能性という種子を握りしめたあなたは、それを育むサクセス・ロードを自ら設計し、そして着実にゴールに至る階段を登っていかねばなりません。扉の前で佇むあなたにとって、経済学・経営学がループ階段の手摺りになるかどうか、学びつつ検証してみてください。学生という属性は、長い人生の一過程ではありますが、サクセス・ロードの重要な基盤形成の過程となります。そこにあるものは、思考と学びと知的創造とでしかありません。

KAZUYUKI MOGI

経済学部教授

経営学博士。1948年生まれ。

大学在学中から今日に至るまで、イギリス産業革命期の綿紡績業における企業生成、労働市場形成、労使関係などについて歴史実証的な分析を積み重ねてきた。その成果の一部は学位請求論文として審査・評価を得たが、その後も同時代における労働組合運動史、経済構造分析などを継続して研究している。他方、経営ないしは人事・労務管理の領域における現代的な課題についても、主として国際比較を中心に研究している。加えて、最近では情報ネットワーク社会における企業や諸個人の役割や課題についても提言を試みている。